

## 羅臼湖踏査（第 2 回、6 / 25）の結果について

### 1. 参加者（敬称略）

- 羅臼山岳会（涌坂、渡辺）
- 羅臼町・知床世界自然遺産協議会（佐々木）
- 知床財団（白柳）
- 羅臼町（遠嶋）
- 根釧東部森林管理署（上野、大野、小林）
- 釧路自然環境事務所（野川、三宅）

### 2. 踏査のルート

冬道の入口から二の沼、三の沼へのコース（3案）を踏査。

### 3. 踏査ルートの概要

- A：二の沼と三の沼の間の尾根を通るルート。ハイマツ帯、ササ原、樹林帯を通過する。前半はササが高いが、後半はササも低くなる。ルート後半部分に沢があるが、簡単にわたることが可能。
- B：二の沼の沢を通るルート。6月後半では雪渓が残っている。ササ原、樹林帯を通過する。ルート後半は雪渓の残る二の沼横を通過する。
- C：三の沼奥から沢沿いを通るルート。前半は背丈の低いササ原、後半は雪渓の残る沢沿いや樹林帯を通過する。沢と沢の間を通過するイメージ。

### 4. 主な議論

- ・ Aは地形面や植生面から考えればルートとして適していると思われる。ササが高い、二の沼が見えないなど景観面に課題がある。
- ・ Bは沢の底を通るイメージだが、植生はササなどであり影響は少ないと思われる。二の沼からの水が流れているが、地形的には水を切ることが簡単にできるため、ルートとして適していると思われる。二の沼の横を通過する箇所植生が現時点では（雪渓のため）確認できないので雪解け後に植生の状況を確認する必要がある。場合によっては、二の沼到達より手前で尾根にルートを持っていくなどが考えられる。二の沼を見せられる点がメリットとしてあげられる。
- ・ Cも植生面等からはルートとして適していると思われる。沢沿いを通るルートであり、雰囲気が良い。ルート設定時には沢をうまくよける工夫が必要である。三の沼奥に出るため、戻る必要が出てしまうことが課題である。

状況写真



ルートA 入口付近の雪渓



ルートA 入口付近のササ帯



ルートA 中間付近



ルートA 中間付近



ルートB 入口付近の雪渓(二の沼周辺)



ルートB 中間付近



状況写真



ルートB 終点付近の雪溪



ルートC 入口付近のササ帯



ルートC 中間付近



ルートC 中間付近の沢





第二回 羅臼湖踏査ルート(2011.6.25 実施)